

令和7年3月11日（火曜日）

予算決算委員会文教・子育て分科会

第2委員会室

出席委員

山口 悟、金内義和、西本眞造、蔭山敏明、
石堂大輔、萩原唯典、三浦充博、牧野圭輔

出席委員

谷川真由美

【文教・子育て委員会（こども未来局）の審査】

開会

13時22分

こども未来局

13時22分

送付議案説明

- ・議案第1号 令和7年度姫路市一般会計予算
- ・議案第3号 令和7年度姫路市母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計予算
- ・議案第12号 令和6年度姫路市一般会計補正予算（第9回）

質疑

13時33分

（質問）

新規拡充事業について、若年層の出会い・結婚支援として、対象を社会人にも拡大し、セミナー・ワークショップを開催するとのことだが、具体的にどのような内容を予定しているのか。

（答弁）

ファイナンシャルプランナー等を講師とし、出産やマイホーム購入などのライフイベント時の必要費用を説明し、参加者自らが具体的な計画を立てる機会を提供することで、将来のライフプランを具体的に考えるサポートをするものである。

（質問）

マッチングアプリや結婚相談所の料金助成によるこれまでの利用実績はどのくらいであったのか。

（答弁）

令和6年度の利用実績は、令和7年2月25日時点で72件あり、その内訳は、マッチングシステムのゼクシィ縁結び、結婚相談所のゼクシィ縁結びエージェントが合計37件、その他のマッチングシステムの利用が、はばタン会員が17件、タッフルが3件、ペアーズが15件である。

（質問）

予算額はどの程度なのか。

（答弁）

需用費や扶助費等も含めた金額であるが、令和6年度予算額は479万9,000円、令和7年度予算額は、1169万円である。

（質問）

72件という数字は少ないと感じるが、こども未来局としてどのように評価しているのか。

今後の目標件数と併せて説明してもらいたい。

（答弁）

客観的に見れば大きな数字ではないが、出会いの場を提供することが本事業の趣旨である。

今後は、20代より少なかった30代の助成額を20代と同額に引き上げることで、30代の利用を促進していきたいと考えている、

（質問）

これまでの取組で成婚につながった件数は把握しているのか。

（答弁）

利用者のプライバシーに関わる問題もあり、行政が把握することは難しいと考えている。

（質問）

ファミリーサポートセンター事業について、提供会員と依頼会員間でのトラブルは発生していないのか。

（答弁）

条件が合わない場合は他の会員を紹介しているため、会員間でトラブルが発生したという話は聞いていない。

（質問）

相談場所がないため、トラブルの把握ができていないのではないのか。

（答弁）

活動報告書の提出を求めており、その中でトラブルがあれば把握できると考えている。

（要望）

会員間のトラブルが発生する可能性も想定し、しっかりと取り組まれない。

（質問）

若年層の出会い・結婚支援に対する予算額として、令和7年度は1169万円との説明があったが、詳細に

説明してもらいたい。

(答弁)

ライフプラン事業の予算額 25 万 2,000 円、婚活サポート事業の予算額 996 万円にその他需用費等を加えた 1,169 万円である。

各マッチングアプリ等の予算額は、ひょうご出会いサポートセンター15 万円、ゼクシィ縁結び 75 万円、ゼクシィ縁結びエージェント 216 万円、ペアーズ 35 万円、タップル 150 万円、市内の結婚相談所への補助 540 万円となっている。

(質問)

若年層の出会いと結婚支援は、歳出のどの項目に入っているのか。

(答弁)

少子化対策事業費の中に含まれている。

(質問)

成婚率を上げるには、カップルが成立しなければならないが、令和7年度予算では、どのくらいのカップルが成立すると見込んでいるのか。

(答弁)

具体的な数値目標は設定していない。

(質問)

当該事業を続けるべきかどうかの判断指標が必要である。目標値がないのは、予算編成として適当ではないと思うがどうか。

(答弁)

本市としても、カップルが成立し、結婚に至ることが望ましい形だと考えているが、出会いの機会がなければ何も始まらないため、その機会を提供したいと考えている。

なお、予算額は各マッチングアプリの利用実績から利用者数を想定したものを積み上げて算出している。

(質問)

育児用品ギフト事業について、こんにちは赤ちゃん事業の訪問時に育児用品のギフトカードを配付することであるが、訪問に時間を要することで転居等により配付が受けられない可能性があるが、どのように考えているのか。

(答弁)

できるだけ訪問に時間差が生じないよう保健所と協議していきたい。

(質問)

当該事業の対象者数はどのぐらいなのか。

(答弁)

約 3,600 人である。

(質問)

令和7年度は、子育て世代の職員が安心して勤務できるような市内保育施設を整備することであるが、こども未来局も関わっていくのか。

(答弁)

総務局の所管であるが、保育の知見があるこども未来局の幼保連携政策課の監査・指導担当やこども保育課の保育士等も関わっている。

(質問)

のびのび広場みらいえの土曜日開設は、市民要望を受けてのものなのか。

(答弁)

そのとおりである。

過去に実施したアンケートにおいて、土曜日の開設を希望する声が多かった。

(質問)

開設日が増えるが、どのような体制で運営しているのか。

(答弁)

子育て広場は広場ごとの職員体制となっており、のびのび広場においても、土曜日開設に当たり、新たな職員を採用している。

(質問)

放課後児童クラブの在り方を検討する中で実施したサウンディング型市場調査に姫路市社会福祉協議会の参加はなかったのか。

(答弁)

参加はなかった。

(質問)

(仮称)姫路市こども・若者会議の参加者 20 人はどのように選考するのか。

(答弁)

公募予定である。

応募者が 20 人を超える場合、年齢バランスを考慮した抽選により選考する予定である。

(質問)

応募に当たり、作文の提出を求めるなどの条件はな

いのか。

(答弁)

様々な子どもたちの意見を聞いてみたいと考えている。表現が苦手な子どももいるので、今回は特に条件を課さない方向で考えている。

(意見)

表現がうまい子どもの意見に偏るのはどうかとの思いがあるので、よいと思う。

(質問)

5人程度と大学生の人数が定めてあるのはなぜなのか。

(答弁)

小学生から高校生までの子どもたちが参加するグループの中で意見の取りまとめやかじ取り役が必要となる。全体で5グループを想定しており、それぞれのグループに大学生を1人配置し、その役割を担ってもらうことを想定している。

(質問)

子ども保育課に約2億5,000万円の予算計上があるが、給食食材費として必要なのか。

(答弁)

そのとおりである。

(質問)

食材の単価契約は行っているのか。

(答弁)

行っていない。

(質問)

給食費を見直すとのことであるが、見直しをしないことのような影響が生じるのか。

(答弁)

現在、物価高騰により様々な食材が値上がりしている。給食費は実費負担の原則であり、納入業者へのしわ寄せや給食の量や質の低下を防ぐため、保護者負担額を見直そうとしている。

(質問)

今までは見直しがなかったものが、このたびの見直しとなる背景を説明してもらいたい。

(答弁)

食材費が値上がりしても、こども保育課の栄養士や現場の調理担当者が同等の栄養価を確保できる安価な食材を探し、なんとか運営してきたが、それが限界

となったためである。

(質問)

保護者負担額の見直しにより、市の歳入にはどの程度影響があるのか。

(答弁)

約600万円増となる。

(質問)

整備事業費として旧聖ヶ岡保育所解体工事が計上されているが、解体後はどうなるのか。

(答弁)

同保育所は、これまで地域で利用されていたが、それがなくなってきたため、解体するものである。

今後は庁内で利活用の方策を検討することとなる。

(質問)

保育士の人材確保対策として幾つかの事業を実施しているが、保育士・保育所支援センター事業費の予算額は令和6年度とほぼ同額であるが、実績はどうなっているのか。

また、保育士等住居借り上げ支援事業費と保育士等奨学金返済支援事業費は令和6年度より減少しているが、実績はどうなのか。

(答弁)

保育士・保育所支援センター事業について、求職者数や求人者数はほぼ横ばいの状況である。

また、予算減額があった部分については、実績人数が変動しているわけではなく、不用額があったため、予算額を精査したためである。

(質問)

いじめ問題再調査委員会委員の報酬給与費の記載があるがなぜなのか。

(答弁)

令和6年度で完了せず、令和7年度も継続するためである。

(質問)

保育士等保育料支援事業費480万円を計上し、保育士等の経済的負担を軽減することであるが、対象者は何人程度を想定しているのか。

(答弁)

助成対象となる保育士等は25人程度と見込んでいる。

(質問)

当該事業は人材確保に苦慮している私立園にもメリットがあると思われることから、様々な手段を用いて周知を行わねばならないが、どのように考えているのか。

(答弁)

新年度開始前には様々な補助金等の説明を実施しているため、保育士確保策についてもそのような機会を捉えて周知していく。

また、潜在保育士などに対しても、市のホームページや広報ひめじを活用し、周知していきたい。

(質問)

(仮称)姫路市こども・若者会議のメンバーの公募について詳しく説明してもらいたい。

(答弁)

当該会議の運営は、業務委託で行うため、現在はその公募プロポーザル期間中である。

事業者が決定次第、今後の日程やPR方法を調整していこうと考えている。

(要望)

広く公募してもらいたい。

普段から目立っている子だけでなく、普通の子もたちにも光が当たるような会議にしてもらいたい。

(質問)

ライフプランセミナーについて、これまでの実績について説明してもらいたい。

また、企業の労働組合でも同様のセミナーを実施しているが、集客が難しいところがある。社会人を対象に加えているのは、そのような理由からなのか。

(答弁)

令和4年度は、兵庫県立大学、広嶺中学校、神崎高校の3校から252人が参加している。

令和5年度は、兵庫県立大学、姫路獨協大学、神崎高校の3校から152人が参加している。

令和6年度は、中学生向けに動画を作成しているが社会人向けの試行事業として姫路市職員10人が参加し、姫路獨協大学などを含め計17人が参加している。

なお、社会人を対象とした経緯は、結婚をより具体的に考えるであろう年齢の人に将来を考えてもらうためである。

(要望)

将来のビジョンを考えるためのきっかけとして、

様々な人にこのようなセミナーを受講してもらうことが大切と考えている。

今後もしっかりと周知広報されたい。

(質問)

高砂市や加古川市では、ごみとして出されたベビーカーなどを貸し出すベビー用品のリユース事業を実施しているが、姫路市では検討していないのか。

(答弁)

今後研究していきたい。

(要望)

利用家庭から「気兼ねなく使用できる。」「限られた期間のものに費用をかける必要がなく、とても助かる。」との声を聞いている。

近隣市町でも実施している、ニーズが高い事業であるので、ぜひ事業化を検討してもらいたい。

こども未来局終了

14時30分

散会

14時30分